

第八十一回帝國議會
衆議院

農業保險法中改正法律案外三件委員會會議錄(速記)第四回

付託議案
農業保險法中改正法律案(政府提出)(第四七號)
食糧管理特別會計法中改正法律案(政府提出)(第二七號)
農業保險ノ保險料國庫負擔金等ノ交付及分擔等ニ關スル法律案(政府提出)(第二八號)
木炭需給調節特別會計法中改正法律案(政府提出)(第二九號)

昭和十八年二月五日(金曜日)午前十時十七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 池田 秀雄君
理事長 國三郎君 理事岩瀬 亮君
理事角 猪之助君 理事日下田 武君
理事深澤 吉平君
安孫子孝次君 石樽 敬一君
小野 祐之君 岡本馬太郎君
紀藤 常亮君 齊藤 正身君
田部 朋之君 竹内 俊吉君
野村嘉久馬君 馬場 元治君
樋口善右衛門君 松岡 秀夫君
松浦周太郎君 牧原源一郎君
滿井 佐吉君 村上 國吉君
最上 政三君 矢部 藤七君
安田 桑次君 吉田 賢一君

出席政府委員左ノ如シ

農林次官 石黑 武重君
農林省農政局長 石井英之助君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

農業保險法中改正法律案(政府提出)
食糧管理特別會計法中改正法律案(政府提出)

農業保險ノ保險料國庫負擔金等ノ交付及分擔等ニ關スル法律案(政府提出)

第六類第九號 農業保險法中改正法律案外三件委員會會議錄 第四回 昭和十八年二月五日

○池田委員長 ソレデハ昨日ニ引續キ開會致シマス、通告順ニ依リマシテ安孫子君ニ御願ヒ致シマス

○安孫子委員 私ハ主ト致シマシテ水稻冷害ノ救済事業ニ關シマシテ御尋ネテ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス

現下ノ重大ナル決戦下ニ於キマシテ、食糧増産確保ノ重大責務ヲ持ツテ居リマス農民ヲシテ、安シジテ其ノ職務ニ専念セシムル態勢ヲ整ヘマスルコトハ、現下ニ於ケル農林行政ノ最モ重要ナル「ポイント」トシナケレバナラナイト云フコトハ申上ゲルマデモナイコトデアリマス、自然ヲ相手ト致シテ居リマス所ノ農業ハ、時々不可抗力ノ災害ニ遭遇致シマシテ、其ノ生活ヲ脅カサレ、經營ノ根柢ヲ覆サレルニ至ルコトハ、既ニ過去ノ實績ニ依ツテ明カナルコトデアアルノデアリマス、現下ノ情勢ハ、斯カル事態ガ生ジマシテモ農業者ヲシテ再起奮闘セシムル方法ガ整備サレテ居ナケレバナラヌト思フノデアリマス、ソレデナケレバ、一旦斯カル災害ニ遭遇シタ曉ニハ、爾後食糧生産ノ上ニ大キナ危險ガ伴フカラデアリマス、是ガ有力ナル對策ノ一ツト致シマシテ農業保險制度ガ役立タネバナラヌト私ハ信ズルノデアリマスガ、農業保險ハ斯カル際ニ十分其ノ效力ヲ發揮スルモノデナケレバナラヌ、斯ウ考ヘルノデ

アリマス、左様ナ意味合ニ於キマシテ此ノ度農業保險法中改正法律案ヲ御提出ニナリマシテ、其ノ整備ヲ御圖リニナルヤウニナリマシタコトニ對シマス當局ノ御盡力ニ對シマシテハ、心カラ敬意ヲ表スル次第デアリマス、併シ段々ト御説明ヲ拜聽シテ參リマス、色々ノ點ニ於テ疑問ガ出テ來ルノデアリマス、特ニ水稻冷害共済事業ハ只今申上ゲタヤウナ目的ヲ達シ得ルカドウカト云フコト、冷害凶作ニ依ル所ノ農業者ノ困難ヲ幾許ノ程度ニ救ヘルカドウト云フコト、或ハ極端ニ申上ゲマスレバ、ナイヨリモアツタ方ガ宜シイト云フ程度ニ終ルコトナキヤヲ心配スルノデアリマス、又同時ニ組合ノ經營上ニ大キナ困難ガ伴フヤウニモ思ハレルノデアリマス、ソレデ特ニ斯ウ云フ見地ニ立チマシテ、若干ノ事項ヲ御尋ネ申上ゲル次第デアリマス

テ居ルノデアリマスガ、是等ト冷害トヲ區別シナケレバナラヌ所ノ理由ガ判明シナイノデアリマス、殊ニ旱害ヲ認メテ居ツテ、冷害ヲ認メナイト云フ理由ガドウモ能ク分リマセヌノデ、此ノ點ニ對シテ當局ノ御見解ヲ御伺ヒシタイノデアリマス、或ハ伺ヒマス、冷害ニ對スル調査ガ不十分デアルト云フヤウナコトモ伺ツテ居リマスガ、ソレナラバ其ノ調査ハドノ邊マデ進シテ居ルカ、何時調査ガ完了スルノデアアルカト云フヤウナ點ニ對シテモ御答辯ヲ御願ヒシタイノデアリマス、假令調査ガ不十分デアツテモ、私ハ現下ノ此ノ食糧増産ノ情勢カラ見マスレバ、ドウシテモ速カニ第一類ノ保險事故トシテ之ヲ認メテ差支ヘナイト私ハ考ヘテ居リマスガ、又斯ウ云フコトモ伺ツテ居ルノデアリマス、冷害ヲ第一類ノ保險事故ト致シマシテ採リ入レマス場合ニ、國庫ノ負擔ガ非常ニ多額ニナル、俄カニ入レ難イト云フヤウナ事由デアルト云フコトモ仄聞シテ居ルノデアリマスガ、果シテサウデアアルカドウカ、若シ第一類ノ保險事故トシテ冷害ヲ入レマシタ場合ニ於テ、一體幾許ノ國庫ノ負擔ニナルカドウカト云フヤウナコトモ御尋ネ申上ゲタイノデアリマス、私ハ國庫ガ負擔ニ困ルヤウナ大キナ災害ヲ、此ノ度改正サレマシタヤウナ共済ノ方法デ共済ガ出來ルカドウカト云フ點ニ於テ疑問

ヲ持ツテ居ルノデアリマス

第二ニハ第一類ノ保險ニ於ケル所ノ保險金ト、冷害共済金トノ間ニ差異ヲ付シマシタ理由デアリマス、水稻ノ自作ノ場合ニ於キマシテハ、第一類ノ農業保險ノ方ニ於キマシテハ、反四十五圓デアリマスガ、冷害共済金ハ二十五圓ニナツテ居リマス、兩者ノ間ノ區別ヲ付ケラレマシタ所ノ理由ハ何處ニアルカ、先ツ此ノ二ツノ點ニ付テ御尋ネ申上ゲテ見タイと思ヒマス

○石井(英)政府委員 冷害ニ付テノ御尋ネデアリマスガ、冷害ヲ保險對象タル事故ニ致サナカッタコトハ、是ハ度々機會ノアル時ニ御話ヲ申上ゲテ居リマスガ、現在ノ保險ノ料率算定ノ基礎ニ致シテ居ル統計ハ、大正九年カラノモノニ付テ被害率ノ算定ヲ致シテ居ルノデアリマス、其ノ間ニ於ケル冷害ノ發生ノ頻度等ヲ考ヘテ見マス、其ノ間ノ統計ニ依ツテ保險料率ノ算定ヲスルト云フ程度ニ統計ガ纏マツテ居ラナイト云フコトガ最も重要ナ原因ナノデアリマス、是ハ保險技術ノ方カラ申シマシテ、被害統計中ニ入ツテ居リマス冷害ノ回數ガ少イ爲ニ、保險ノ對象トスル爲ニ根本的ニ必要デアル料率ノ算定ガ困難デアル、斯ウ云フ所ニ冷害ヲ保險事故ノ對象ト致サナカッタ理由ガアルノデアリマス、從來ノ調査カラ申シマス、大體冷害ハ相當ノ期間ヲ離レテ周期的ニ襲來スル、サウシテ周期的ニ其ノ冷害ガ參リマス、二、三年續イテ來ル、斯ウ云フヤウナ傾向ヲ持ツテ居ルモノナノデアリマス、隨ヒマシテサウ云フモノ總テヲ通ジマシテ、保險ノ對象トスル爲ノ料率算定ヲ致ス爲ニハ、相當長期間ニ互ル被害統計ヲ集計致シマシテ、サウシテ其ノ調査ヲ致

シマセヌケレバ、正式ニ保險ノ對象トスルコトハ技術的ニ困難デアル、斯ウ云フコトカラ冷害ヲ保險事故ト致サナカッタノデアリマス、冷害ノ生ズル原因ニ付キマシテハ、從來カラ色々ノ調査ガゴザイマスケレドモ、マダ其ノ邊ハハツキリ致シテ居ラヌノデアリマス、是モ總テノ方面ニ互ツテノ調査ガ段々進ンデ參リマスレバ、此ノ冷害ト云フモノニ對スル取扱モ將來ハ段々ト考ヘテ進メテ行クコトガ出來ルノデハナイカト思ツテ居リマスケレドモ、現在ハ左様ナ關係カラ之ヲ保險事故トハ致シテ居ラナイノデアリマス、尙ホ之ヲ保險ノ事故トスルコトニ致シマス、國庫ノ負擔ガ非常ニ増大スルカラ、ソレヲ恐レテ保險ノ對象ニシナカッタノデハナイカト云フヤウナ御話ガゴザイマシタケレドモ、左様ナコトハ全然考ヘテ居ラナイノデアリマス、之ヲ保險ノ事故ト致シタナラバ、ドノ程度國庫ニ於テ負擔シナケレバナラナイカト云フヤウナ計算モ實ハ考ヘルマデニ至ラナイノデアリマス、其ノ前提タル技術的ノ關係ニ於キマシテ、保險ノ事故トスルコトガ出來ナイト云フコトデ現在ノヤウナ取扱ヲ致シタノデアリマス、併シナガラ御話ニモゴザイマシタ通り、當面ノ食糧増産ノ問題ト致シマシテ、此ノ冷害ニ對スル共済制度ノ整備擴充ト云フコトハ非常ニ必要ト考ヘマシテ、現在ノヤウナ國庫負擔ノ方法モ考ヘテ、只今ノ事態ニ即スル措置ヲ執ルコトニ致シタ譯デアリマス、之ニ依リマシテ保險ノ事故ト致シマシタニ近イヤウナ效果ヲ擧ゲルコトニ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ冷害ノ共済金ト水稻ノ保險ノ方ノ保險金トニ差異ヲ設ケタ理由ニ付テ御尋ネガゴザイシマタガ、

是ハ從來實行シテ居リマス現狀ニ即シマシテ、今般ノ改正ヲ考ヘタノデアリマシテ、從來水稻ノ保險ノ保險金額ハ二十圓ト云フコトデアリ、水稻ノ冷害ノ方ハ、其ノ半額ノ十圓ト云フコトデ共済制度ヲ實施シテ來テ居リマシタ從來ノ沿革ニ鑑ミマシテ、此ノ際ノ改正ニ當リマシテモ、水稻ノ保險ト冷害トノ間ニハ今回改正ヲ致シマシタ程度ノ差異ヲ設ケテ行キマスコトガ沿革的ニ考ヘマシテ、適當ナ所ト考ヘテ斯様ナ取扱ヒニ致シタ譯デアリマス

○石井(英)政府委員 大體ノ原則ト致シマシテハ、水稻冷害ニ對スル共済金二十五圓ト云フコトデ、非常ナ冷害ガ起リマシタ場合ノ救済ト申シマスガ、其ノ被害ヲ全的ニ回復スルコト云フヤウナコトニハ、勿論足リナイ所ガアラウト思ヒマスケレドモ、再生産確保ト云フ見地カラ申シマシテ、二十五圓程度ノ共済金ガ出ルコトニナリマスレバ、大體ニ於テ其ノ趣旨ヲ達成シ得ルモノト考ヘテ居ルノデアリマス

○安孫子委員 今ノ御答辯ニ依リマス、調査ガ未了ノ爲ニヤリ得ナイト云フヤウナ御趣旨ノヤウニ拜聽致シマシタノデアリマスガ、サウ致シマス中々確實ナ統計ヲ取ルト云フコトハ三年や五年や、十年ノ問題デナイヤウニモ考ヘラレルノデアリマス、サウスルト暫クノ間冷害ヲ第一類ノ保險事故ニ認メルコトハ困難デアルト云フ見解ニ落着キヤウニモ見エルノデアリマス、又今ノ共済金ノ金額ニ於キマシテモ、二十五圓ニコニ御定メニナツテ居ルノデアリマスガ、サウ云フヤウナ方法デ今改正サレマスルヤウナ共済制度ニ於キマシテ冷害ニ遭遇シタ農家ヲ救ヒ得ルヤウナ御見透シガ確實デゴザイマセウカ、此ノ點ニ付テ當局ノ御見解ヲ伺ヒタイノデアリマス、隨分冷害地ノ農家ハ一旦冷害ニ遭フト慘メナ狀態ニナツテ居リマスノデ、私ハドウモ、御改正ノ趣旨ニ對シテハ心カラ敬意ヲ表シマスガ、其ノ結果ニ於キマシテハ、是ハ當局ガ御考ヘニナルヤウナ效果ヲ齎ラスコトガ出來ルカドウカト云フコトニ非常ナ心配ヲ持ツテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ對スル當局ノ御見透シハドウカト云フコトヲ此ノ際伺ヒタイノ

○安孫子委員 ソレナラバモウ少シ御尋ネ申上ゲタイノデスガ、現行ノ施設ニ於キマシテハ、共済金ヲ支拂フベキ所ノ最低最高ノ被害率ガ定マツテ居ルノデアリマス、隨テ冷害ガ起リマシテモ二十五圓ノ共済金ヲ農家ガ貰フト云フ場合ハサウナイノデハナイカト云フヤウナ心配ガ出來テ居ルノデアリマス、ソレデ今ノヤウナ御趣旨デアリマスレバ、先ヅ以テ最低最高ノ被害率ヲ撤廢セラルル御意圖ガナイカドウカト云フ點デアリマス、昨年ノ一月十四日農林省告示第四百八十八號ニ依リマス、北海道ノ最低被害率ハ二〇%ニナツテ居リマス、併シ北海道ハ土地ガ非常ニ廣汎デアリマスノデ、平均ノ被害率ガ二〇%デアリマシテモ、或ル地方ニ於キマシテハ收穫皆無ノヤウナ狀態ガ來ル場合アルノデアリマス、ソレデ北海道ハ平均二〇%以上ニナラナケレバ恐ラクハ此ノ共済金ノ交付ガナイコトニナルノデナイカト解釋サレルノデアリマス、私ノ申上ゲルコトガ間違ツテ居ラナラバ、御訂正ヲ願ヒマスガ、私ハサウ考ヘテ居ルノデアリマス、現ニ昨年ノ如キモ、北海道ト致シマシテハ、作柄ハ先ヅ上乘デアリマシタ、

大體ニ於テ相當ノ收穫ヲ上ゲテ居リマスガ、或ル地方ニ於キマシテハ可ナリノ冷害ヲ受ケテ居ルノデアリマス、其ノ地方ハ、冷害ヲ受ケマシテモ此ノ共濟ノ恩典ニ浴スルコトガ出来ヌ結果ニナルノデアリマス、又更ニ是ハ北海道モ東北モ同ジコトデアリマスガ、保險組合別ニ其ノ最低最高ノ被害率ヲ見マスト甚ダ實情ニ副ハナイヤウニ私ハ考ヘルノデアリマス、例ヘバ北海道ヲ見マシテモ、北見ノ保險組合ニ於キマシテハ、最低被害率ガ四四・九七六%、最高ガ七七・一九七%ニナツテ居リマス、日高ニナリマス、最低ガ一一・四三%、最高ガ二七・七三七%ニナツテ居ルト云フヤウナ譯デ、一申上ゲルト冗漫ニナリマスカラ申上ゲマセヌガ、其ノヤウニ非常ニ地方ニ依ツテ實情ニ副ハナイコトガアルノデアリマスガ、特ニ最高被害率ヲ見マス、ソレノ制限ガアリマスノデ、二十五圓ノ共濟金ガ掲ゲテアリマシテモ、其ノ結果ハ其ノ幾割カヲ削減シテ支拂ハナケレバナラヌト云フコトニナルト思フノデアリマスガ、又實際ノ場合ニ於キマシテハ、其ノ理由ニ依ツテ——是ハ後申上ゲマスガ——削減サレル場合ガアリマスカラ、一層減額サレルト云フコトニナリマシテ、之ヲ酷ニ批判致シマスレバ羊頭狗肉ノ謗リヲ免カレナイト云フヤウナコトニモナリハシナイカ、ソレデアリマスルカラ之ヲ撤廢シテハドウカト思フノデアリマスガ、之ニ對スル當局ノ御所見ハドウカ、又之ヲ撤廢致シマスト保險組合ノ經營ニ支障ガ起ルトノ意見モ出テ來ルトモ思フノデアリマス、共濟金ガ第一類ノ保險金ノ約半分ニ加ヘマシテ、更ニ減額支拂サレルヤウデハ、假令保險組合ノ經營ニ困

難ガ伴ヒマシテモ、農業者ノ困難ヲ救フト云フコトニナラヌノデアリマスノデ、斯クテハ農業者ヲ加入セシメマスル上ニ於テ甚ダシク困難ヲ感ズルト思フノデアリマス、組合ノ運營ニ對シマシテハ別途ニ對策ヲ講ゼラレマシテ、此ノ最低被害率、最高被害率ヲ撤廢シテ戴クト云フコトニ對シマスル當局ノ御所見ハドウデアリマスカ、此ノ點ニ對シマシテ御答辯ヲ御願ヒシタイノデアリマス

○石井(英)政府委員 冷害共濟ニ付テノ最低被害率、最高被害率ヲ設ケテ居リマスノハ、最低被害率ニ付テハ、部分的ナ冷害の現象ガ起リマシタヤウナ時ニ、ソレニ對シテモボツノ共濟金ノ拂ヒヲスルト云フヤウナコトハ、全體ノ冷害共濟ノ趣旨カラ見テハ不適當デアアル、御承知ノ通り、大體所謂冷害ガ參リマスル場合ニハ其ノ地域ガ廣汎ニ大規模ニ來ルノガ通態デアリマス、デアリマスルガ、偶、部分的ニ冷害ト云フヤウナコトデ此ノ共濟金ヲ出シテ行クト云フヤウナコトハ、全體ノ冷害ノ對スル共濟制度ノ趣旨ヲ貫徹スル爲ニハ適當デナイト云フ見地カラ最低被害率ト云フモノヲ設ケテ居ルノデアリマス、實際ノ問題ト致シマシテモ、既往ノ被害率カラ計算シテ見マスルト、所謂冷害ガ出來マシタ年ニ於ケル道府縣ノ被害率ト云フモノハ、總デ最低率以上ニ現實問題トシテナツテ居ルノデアリマス、殊ニ北海道ニ付テ具體的ニ吾々ノ方デ觀察ヲシテ居ル所ニ依リスマレバ、冷害ノ參リマシタ時ニハ必ず最低被害率以上ニ郡別ニ考ヘマシテモナツテ居ルノデアリマス、ソレカラ尙ホ最高被害率ニ付キマシテハ、既往ノ最高被害ノ所ヲ取ツテ居ルノデアリマスカ

ラ、是亦吾々ノ方ノ見込ト致シマシテハ、現實ノ問題トシテ支障ヲ生ズル虞ハナイ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ此ノ被害率ノ問題ニ付キマシテハ、實際ノ事實ニ基キマシテ、出來得ル限り實情ニ副フヤウナモノニ致サナケレバナラヌコトハ、申スマデモナイノデアリマスカラ、今後ニ於キマシテモ實際ノ被害現況ニ即シマシテ、適當ニ算定ヲ致スコトハ勿論デアリマス、大體現在トシテハ此ノ最低最高ノ問題ニ付テハ、現行制度ヲ維持致シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○安孫子委員 只今ノ御答辯デ、現行制度ヲ維持スルト云フ御方針ノヤウデアリマスガ、併シ又實情ニ即スルヤウニ改正シタイト云フ御意見ノヤウニ伺ツタノデアリマスケレドモ、昨年ノ北海道ノ作況ニ付テ御調査下サイマスレバ、私ハ此ノ最高最低被害率ノアルコトニ依ツテ、農家ガ此ノ共濟事業ニ對スル關心ヲ非常ニ低メルト云フ結果ニナリハシナイカト云フ心配ヲ持ツテ居ルノデアリマス、只今申上ゲタコトハ繰返シマセヌガ、昨年ハ地方ニ依ツテハ、例ヘバ北見ノ保險組合ノ如キハ可ナリノ冷害ヲ受ケテ居ルノデアリマスカラ、私ト致シマシテハモツト實情ヲ御調査下サルコトヲ茲ニ希望スル次第デアリマス

テ重要デアリマスノデ、少シ細目ニ入りマシテ御尋ね申上ゲタイト思ヒマス

北見地方ニ於キマシテハ昭和三年以降昭和六年、昭和七年、昭和九年、昭和十年、昭和十六年ト、五回ノ凶作ニ遭ツテ居リマス、之ヲ斯ウ云フ風ニ計算シタノデアリマスガ、昭和六年ノ作付段別ハ一万九千二百一十町八段步デアリマス、サウシテ其ノ年ノ平均被害率ハ四九・九一六%トナツテ居リマス、今假ニ共濟掛金ヲ二圓ト致シマシテ、今回ノ改正ニ依リマシテ其ノ內國庫ニ於テ約一圓三十錢ヲ負擔シテ戴クカラ、農業者ハ約七十錢ノ負擔ヲスルト云フヤウナ計算ヲヤツタノデアリマス、昭和三年カラ五年マデハ災害ガアリマセヌノデ、此ノ三年間ニ共濟掛金ハ、耕作段別一万九千二百一十町八段步トシテズツト計算致シマスレバ、共濟掛金ノ積立ガ百十五万二千七百八圓ニナルノデアリマス、昭和六年ノ被害ハ四九・九一六%デアリマスカラ、是ハ補助令ノ適用ヲ受クル譯デアリマス、サウ云フ基礎カラ計算致シマス、此ノ保險組合ガ共濟金トシテ支拂ハナケレバナラヌ所ノ金ハ二百三十九万七千四百四十九圓二十五錢ニナリマス、ソレカラ保險掛金ノ積立額ハ百十五万二千七百八圓デアリマスカラ、北見保險組合ノ不足分ハ百二十四万四千七百四十一圓二十五錢ニナルノデアリマス、此ノ半分ハ國庫カラ利子ノ補給ヲ戴ケルコトニナツテ居リマスカラ、先ヅ此ノ半分ダケヲ借金致シマシテ、サウシテ此ノ共濟金ノ支拂ヲスルト云フ計算ヲヤツテ見タノデアリマス、其ノ半額ハ六十二万二千三百七十圓六十二錢五厘ニナリマスノデ、之ヲ借金ヲ致シマシテ、サウシテ今ノ支拂ヲ致シマス、實際支拂フ

次ニ共濟事業運營ノ問題デアリマスガ私ハ今話ニ出マシタ所ノ北見ノ保險組合ガ、過去昭和三年カラ共濟事業ヲ實施シタモノトシテ計算シテ見タノデアリマスガ、其ノ結果ニ付キマシテ一應申上ゲマシテ、當局ノ御見解ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、話ガ細目ニ入りマスノデ洵ニ恐縮デアリマスガ、北海道トシマシテハ此ノ點ハ極メ

第六類第九號 農業保險法中改正法律案外三件委員會會議錄 第四回 昭和十八年二月五日

三

三

金ガ百七十七万五千七十八圓六十二錢五厘
ニナリマス、サウスルト當然支拂フベキ所
ノ共濟金ノ二百三十九万七千四百四十九圓
二十五錢ニ對シマシテ、七四%ニ相當スルノデ
アリマス、二六%ヲ削減シテ支拂ハナレバナ
ラス、サウシテ組合ハ六十二万二千三百七
十圓六十二錢五厘ノ無利子ノ金ヲ借りルコ
トニナリマス、此ノ年ノ段當支拂共濟金ハ
之ヲ平均ニ削減スルモノトシテ、之ヲ支拂
ヒマス場合ニ於キマシテ、一々細カク申上
ガマス時ガ掛カリマスノ一部分ダケ申
上ガマスガ、被害程度三割乃至四割ノモノ
ハ規定ニ依リマス二圓五十錢ノ共濟金ヲ
受取ルベキモノガ、本年ハ一圓八十五錢ヨリ
受取ルコトガ出來ナイノデアリマス、又五割
乃至六割ノ被害程度ノモノハ規定ニ依リマ
スト十圓ノ支拂ヲ受ケマスノガ、本年ハ七
圓四十錢ヨリ受ケルコトガ出來ナイ、九割
以上ノ被害ノモノハ、規定ニ依リマスレバ二
十五圓ノ共濟金ヲ受取ルベキノガ實際ハ十
八圓五十錢シカ受取ルコトガ出來ナイ、昭
和七年モ冷害ガアツタノデアリマスガ、途
中ノ説明ハ省略シマシテ、昭和七年ノ計
算ハ斯ウナリマス、支拂フベキ所ノ共濟金
ハ、三百六十三万九千七百九十八圓八十七
錢五厘ニナリマス、此ノ年ノ保險收入、詰
リ共濟掛金ハ三十九万九千五百八圓シカナ
イノデアリマスカラ、不足額ガ三百二十四万
二百九十圓何ガシニナリマス、サウスルト
本年モ此ノ半分ノ政府ノ利子補給ヲ受ケ得
ルモノダケヲ借入致シマシテ支拂フコトニ
致シマス、百六十二万四千五百四十三圓
錢ヲ削減シナレバナラヌノデアリマスカ
ラ、支拂ヒ得ル金額ハ二百一十九千六百五十
三圓四十三錢トナリマシテ、五五・四九%ハ支

拂ヒマスガ四四・五一%ハ削減ノ外ハナイノデ
アリマス、ソレデアリマスカラ、實際ノ段
當支拂保險金ハ三割カラ四割ノ被害程度ノ
モノハ一圓三十八錢七厘、五割カラ六割ハ
五圓五十四錢九厘、ソレカラ九割以上收穫
皆無ト云フベキモノハ、十三圓七十八錢ノ
共濟金ヲ受ケルヨリ仕樣ガナイノデアリマ
ス、斯様ナ計算ヲズツトシテ參リマス、
毎年々々ノ數字ハ持つテ居リマスガ、冗漫
ニナリマスカラ之ヲ省略致シマシテ、昭和
十六年ノ計算ヲ申上ガマス、昭和十六年ハ
昭和十一年カラ十五年マデ五箇年ハ幸ヒニ
災害ガナイノデアリマス、併シ年々災害ノ爲
ニ作付段別ガ減ツテ居リマスノデ、此ノ段
別ハ昭和十四年、十五年ノ平均ノ作付段別
ヲ見マシテ、サウシテ五箇年ノ收入ヲ計算
致シマス、百二十九万二千八百圓ニナリマ
ス、之ヲ借金ノ辨濟ニ充テマシテモ三百五
十八万二千八百七圓九十八錢ノ借金ヲ持つ
テ昭和十六年ヲ迎ヘルコトニナルノデアリ
マス、昭和十六年ハ最高被害率ヲ超エテ居
リマスカラ、其ノ基準ノ金額ハ百七十九万
百五十九圓八十三錢ニナリマス、然ルニ收
入ハ十八万五千五百十六圓ヨリ外アリマセ
ヌ、ソレデ今年モ前年同様利子補給ヲ受ケ
得マスル借入金ダケヲシテ支拂フコトニ致
シマス、其ノ借入金ハ八十萬二千三百二
十一圓八十錢トナリマシテ、サウシテ實際
農家ニ支拂ヒ得ル所ノモノハ三割カラ四割
ノ被害ヲ受ケタモノハ一圓二十八錢五厘、
ソレカラ五割カラ六割ノ被害ヲ受ケタモノ
ハ五圓十四錢一厘、九割以上ノ被害ヲ受ケ
タモノハ十二圓八十五錢三厘ニナリマシテ、
組合ハ四百三十八万二千六百九圓七十八錢
ノ借金ガ殘ル譯デアリマス、斯ウ云フ風ナ

計算ヲシテ見マス、是ハ連年借錢拂フ致
シマシタ上ニ、年々借金ハ増スコトニナル
ノデアリマス、第一斯カル金額デハ私ハ冷
害ノ凶作ニハ非常ニ不十分デアラウト思ヒ
マス、是デハ災害ニ相成リマシタ場合ニ於
キマシテ、農家ノ生活ヲ保證致シマシテ翌
年ノ再生産ノ準備ヲナスト云フ上ニハ、大
キナ困難ガ伴フノデハナイカト思ヒマス、
各地ニ離農者ガ増加シテ來テ居リマス、不
作付地モ多クナツテ居ルコトハ洵ニ憂フベ
キコトデアリマスガ、殊ニ北海道ノ如キ生
産條件ノ劣ツテ居ル所ニ於キマシテハ、此
ノ傾向ガ特ニ激シイノデアリマス、昨日御
配付ヲ受ケマシタ所ノ資料ニ依ツテ見マシ
テモ、北海道ハ昭和十二年ニ於テハ十九万
八千八百三十八戸ノ農家ガアリマシタモノ
ガ、昭和十五年ニハ十八万一千四百十六戸ト
ナツテ、一万六千七百九十二戸減ジテ居リ
マス、昭和十六年、十七年ト合シマスレバ
恐ラクハ二万户以上ノ農家ガ減ツテ居ルノ
デアリマス、之ニ伴ツテ不作付地ガ著シク
増加シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマ
ス、今假ニ例ヲ取ツテ述ベマシタ所ノ北見
保險組合管内ノ作付反別ヲ見マシテモ、昭
和六年ニハ一万九千二百一十一町八反デアツ
タモノガ、昭和十六年ニハ九千二百七十五
町八反トナツテ、一万町歩ノ減少ヲ來シテ
居リマス、勿論是ハ冷害バカリデハアリマ
セヌケレドモ、斯様ニ減少致シマシタ所
ノ重要ナル原因ハ、冷害ヲ舉ゲルコトガ出
來ルト思ヒマス、私ハ農業者ノ時局認識ハ
不十分デアルトハ考ヘテ居リマセヌ、職域
御奉公ニ熱心ニ燃エ上ツテ居ルト思フ、北
海道ノ色々ノ實例ニ徴シマシテモ、原始作
物ノ爲ニ、採算ハ取レナクテモ、國家ノ用

ニ立ツト思ヒマスレバ、進ンデ是ガ生産ヲ
スルト云フヤウナ狀態デアリマス、然ル
ニ尙ホ離農シ、不作付地ヲ生ズルト云フコ
トハ眞ニ已ムヲ得ザル事態ガアルカラデア
リマシテ、其ノ心情ハ洵ニ同情スベキコ
トデアリマス、殊ニ水田耕作者ニ於キマシ
テハ經營ガ單純デアリマス、北海道ハ、二
毛作ガ出來マセヌノデ、單純デアリマスカ
ラ、一旦不作ニ遭ヒマス、其ノ困難ガ極
メテ大キイノデアリマス、祖先墳墓ノ地ヲ
見捨テマシテ、土地ヲ離レルト云フコトハ
ヨクノコトデアリマスノデ、北海道ニ
於キマシテハ其ノ原因ノ大キナモノガ冷害
ニアルト云フコトハ是ハ申上ゲルマデモナ
イノデアリマシテ、斯クテハ農業者ノ生活
ノ安定モ、經濟ノ合理化モ、農業者ガ君國
ニ御奉公申上ゲルコトモ出來ナイト思フ
ノデアリマス、私共斯ウ云フ考ヘヲ以テ
農家ニ接シテ居リマスガ、農業者ノ生活
ノ安定ト經濟ノ確立モ、農業者ノ爲メデ
ナク、國家ニ御奉公スル手段デアル、隨
テ現在ニ於テ許サレタル最低ノ生活ガ
保障サレ、翌年ノ再生産ガ出來レバ満足
シテ宜イ、然ルニ今申上ゲタヤウナ共濟金
デハソレハ不可能デアリマス、隨テ何トカ
別途ニ國家ガ之ニ對スル對策ヲ御講ジニナ
ルト云フ御準備ガアリマスレバ格別、恐ラク
ハ別途ニ何カノ對策ヲ御持チ合セニナツテ居
ラレルト思ヒマスガ、冷害共濟ノ立場カラ
申シマス、此ノ點ニ對シテ私ハ甚ダ遺憾
ニ思フノデアリマス、而モ以上ノ計算ニ依
リマス、組合ハ年々借金ヲ増加シテ行ク
ノデアリマスカラ、忽チニシテ組合ノ經營
ガ破綻スルコトニナリハシナイカ、是ガ爲
ニドウシタラ宜イカト云フト、先ツ組合ト

シテヤルベキ方法ハ、更ニ借錢拂ヒヲスル
ト云フコトデアリマス、結局掛金ノ程度デ
支拂ヒヲスル、此ノ程度ノ共済ヨリ出来ナ
イト云フ、自分ガ掛ケマシタ掛金ト、政府
カラ戴キマシタ掛金ヲ合セタ程度ノ仕事ヨ
リ以上ハ出来ナイ、其ノ以上ノ借金ハ國ノ
御定メニナツタ共済金デ支拂フコトハ困
難デアルト云フ結論ニ到達スルノデハナイ
カト思フノデアリマス、其ノ結果ハ冷害共
済金ハ備荒貯蓄ノ域ヲ出ナイト云フコトニ
ナリハシナイカ、斯ウ考ヘルノデアリマス、
此ノ點ニ對シマシテ私ハ政府ノ御所見ヲ伺
ヒタイ、此ノ二十五圓ト云フ金額ハ不十分
ト私ハ考ヘテ居リマス、ソレデ此ノ二十五
圓ト云フ金額ヲ茲ニ掲ゲマシテモ、ソレハ
高嶺ノ花デアツテ、組合ガ其ノ金ヲ拂ツテ
ヤラウト致シマスレバ、組合自身ガ成立タ
ナイト云フヤウナ結果ニ陥ルコトハ明カデ
アル、以上申上ゲタヤウナ結論ニ到達スル
コトニナリマス、之ニ對スル當局ノ見解ハ
如何デアリマスルカ、承ツテ見タイノデア
リマス

○石井(英)政府委員 只今御話ノ點ニ付キ
マシテハ、一ツノ過去ノ實例ニ付テ、ソレヲ
本トシテ色々御計算ニナツタヤウニ承ツタ
ノデアリマスガ、其ノ點ガ先程申上ゲマシ
タヤウニ、冷害ト云フモノハ如何ナル頻度
ニ於テ、如何ナル周期ヲ以テドウ云フ風ニ、
永年ノ傾向トシテ現ハレテ來ルモノデアラ
ウカト云フコトニ付テ、吾々ノ方トシテハ
之ヲ正確ニ取扱フ資料ガナイノデアリマス、
隨ヒマシテ之ヲ保險事故ノ對象トスルコト
ガ出来ナイト云フコトハ先程申上ゲタ通り
デアリマス、隨テ今後ニ於キマシテ如何
ナル程度ニ此ノ冷害ノ被害ト云フモノガ發

生スルカト云フコトハ、吾々トシテハ正確
ナ資料ニ基ク見透シト云フコトガ不可能ナ
狀態ニアルノデアリマス、隨ヒマシテ冷害
ニ付テハ差當リ第二類ノ共済事業トシテヤ
ル、是ハ要スルニ共済金ヲ集メテ、被害率
ガドウ斯ウト云フノデ保險ノ程度ヲ正確ニ
ヤルトハ申シ得ナイ、集マツタ金デ共済ヲシ
テ行ク、斯ウ云フコトデアリマス、ソレニ對
シテ國ガ東北北海道ノ米作ノ關係モ十分考
ヘマシテ、其ノ共済金ノ一部負擔ヲスル、
斯ウ云フ考ヘ方デ行ツテ居ル譯ナノデアリ
マス、隨テ今後如何ナル狀態ニ冷害ガ發生
スルカト云フ豫測ヲ致スコトハ、非常ニ困難
デアリマス、其ノ結果ハドウ云フ結果ニナ
ルカ、又組合トシテ如何ナル經營狀況ニナ
ルカト云フコトハ、確タルコトハ申シ得ナ
イノデアリマス、御説ノヤウナ事態ニ或ハ
ナルカモ知レズ、又或ハ冷害ノ生ジマス頻
度、回数ト云フモノガ最近ノ如クデナカツ
タナラバ、更ニ餘裕ガアル經理ガ出來ルノ
デハナイダラウカト考ヘラレルノデアリマ
ス、尙ホ二十五圓トスレバ冷害ノ起リマシ
タ場合ノ共済金ガ不十分デアルト云フコト
デアリマスガ、吾々モ之ヲ以テ非常ニ十分
ナルモノトハ考ヘテ居ラスノデアリマスガ、
此ノ共済金ヲ引上ゲルコトニ致シマスレバ
冷害ニ付テハハツキリシタ基礎ガナイノデ
アリマスカラ、共済掛金ト云フモノハ相當
ニ高ク致サナケレバ、組合ノ經理ト云フモ
ノガ是亦成立タナイト云フコトニ相成ルノ
デハナイカト思フノデアリマス、其ノ邊ハ
今マデヤツテ見マシタ沿革ト、農民ニ對ス
ル負擔關係ト云フモノモ考ヘテ、反當共済
金ト云フモノヲ決メデ行クノガ、實情ニ即

シタヤリ方デアラウト考ヘマスノデ、差當
リノ問題ト致シマシテハ反當二十五圓ト致
スノガ、實際問題トシテ適當ナ所デアラ
ウ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス
○安孫子委員 私ガ今御質問申上ゲマシタ
所ノ計算方法ハ、正シイト認メテ宜シウゴ
ザイマスカ

○石井(英)政府委員 只今ノ計算ノ點ハ各
郡ノ被害別其ノ他ヲ、私ノ方ノ資料デ十分
調べテ計算シテ見ナケレバ、計算上ノ問題
デアリマスカラ、今御述ベニナリマシタノ
ガ、其ノ通り正確ナ結果ニナルモノカドウ
カ、只今此處デ御答ヘヲ申上ゲルコトハ困
難ダト思ヒマス、尙ホ十分調査ヲ致シマシ
タ上デ研究ヲシテ見タイト思ヒマス

○安孫子委員 私ハ數字ヲ適否ヲ御尋ネ申
上ゲタノデハナイノデアリマス、計算ノ筋
道ガサウナリマスカ、左様ナ計算デ行クコ
トガ、計算ノ筋道トシテ當局トシテ御決メ
ニナツタ方法ニ即シテ居ルカドウカト云フ
點ヲ私ハ御伺ヒシタノデアリマス、私ノ計
算ガ誤ツテ居リマスレバ、是ハ申上ゲテモ
何ニモナラスコトニナリマスカラ……

○石井(英)政府委員 計算致シマス筋道ハ、
大體御話ニナリマシタヤウナ筋道デ進行致
スト考ヘマス、併シ其ノ被害率ヲドウ取ル
カ、何ヲドウ取ルカト云フコトニ依リマシ
テ、今ノ數字ハ基礎ガ違ヘバ相當ニ違ツテ
參ルダラウト思ヒマス、ソレガ如何ナル年
ニドウ起ツテ來ルカト云フ今後ノ見透シニ、
御話ノ事實ガ其ノ基礎ニナリ得ルカドウ
カト云フコトニ付テハ、相當研究ヲ要スル
問題ガアラウト思ヒマス
○安孫子委員 今私ハ色々實ハ考ヘテ
見タノデアリマスガ、考ヘル結果ハ結局組

合ノ經營ヲ安全ニ致シマス、先程申上ゲ
タヤウニハツキリト政府ノ掛金ニ對スル補
助ノ程度以上ニスルコトハ、困難デアラウ
ト云フ結論ニ達スルノデアリマス、ソレカ
ラ二十五圓ト云フ金額ヲ拂フヤウニスルト、
組合ノ經營ガ成立タナイト云フ結論ニ、私
ノ計算ニ於テハナルノデアリマス、ソレデ
アリマスカラ斯ウ云フノデハ、到底農家ヲ
シテ組合ニ加入サセルコトハ困難デアル、
獎勵サレマシテモ勸誘上非常ニ困難デア
ルト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレニ伴ツテ私
ハ次ノコトヲ御伺ヒシタイ、今統計上色々
過去ノ實績カラ、第一例ニ入レルコトハ困
難デアルト云フコトデアリマスレバ、ソレナ
ラバ斯ウ云フコトハ出来ナイカ、是ハ農林
省御擔當ノ色々ノ仕事ニ於テモ、既ニオヤ
リニナツテ居ルコトデ、損失補償ノ制度ガ
アルヤウニ承知致シテ居リマス、負債整理
問題トカ、或ハ國策會社等ノ問題ニ於キマ
シテモ、損失補償ノ制度ガアルノデアリマ
スガ、共済組合ニモ斯クノ如キ制度ヲ採リ
入レテ、經營ヲモウ少シ安全化スルコトニ
依リマシテ、モウ少シ國ガ決メラレタ所ノ
共済金ニ近い金ヲ拂ヒ得ルト云フコトモ出
來ルカト思フノデアリマス、此ノ點ニ對シ
マシテ當局ハサウ云フ御考ヘヲ御持チニナ
ツテ居ルカ、或ハ今後サウ云フ點ニ對シテ
ドウ云フ御見解ヲ御持チニナツテ居ルカ伺
ヒタイ

○石井(英)政府委員 只今御話ノ點ハ、組合
ノ運營ト云フモノヲ確實ニヤツテ行カウト
スレバ、二十五圓ノ支拂ハ難カシイ、二十
五圓ノ支拂ヲ確保スル爲ニハ、組合ノ運營
ガ旨ク成立タヌ、斯ウ云フコトニナルガ、
ソレヲ二十五圓拂ヒ得ルヤウニシテ、且又

組合ノ運営モ十分ニ行クヤウニ、何カ別途ノ方法ヲ採ル者ヘハナイカ、斯ウ云フ御尋ネノヤウニ承ツタノデアリマスガ、二十五圓ノ支拂ヲ致シテ、組合ノ運営ト云フモノヲ十分ニヤツテ行クト云フコトニナレバ、共済掛金ト云フモノヲ十分ニ致シテ置ケバ、是ハ問題ナイコトハ申上グルマデモナイノデアリマス、其ノ共済掛金ト云フモノヲドノ程度ニシテ置ケバ、長年ノ共済制度トシテ固マツテ行クデアラウカト云フ見透シガ付カナイガ故ニ、之ヲ保險事故ノ對象ニ致サナカツタノデアリマス、其ノ根本ノ所ノ事情ヲ一ツ十分御諒解願ヒタイト思ヒマス、差當リノ冷害共済ノ問題トシテハ、凡ソノ見當フ付ケ、共済ノ掛金ヲ農家ノ負擔ノ事情モ考ヘテ決メテ參ツテ、サウシテ或ル程度金ガナイ場合ニハ、打切ルト云フ制度デヤラザルヲ得ナイト云フ根本ノ事情ガアル譯デアリマス、之ヲ非常ニ共済掛金ヲ高ク致シマスレバ、實行上ニ於テ非常ニ困難モ生ジテ參リマセウシ、ソコニ水稻冷害共済ニ對スル考ヘ方ニ、或ル意味ニ於テノ不徹底ヲ免レナイ根本ノ原因ガアル譯デアリマス、デアリマスカラ此ノ冷害ニ對スル共済制度ト云フモノハ、合理的ナル基礎ノ上ニ漸次堅實ナモノニ固メテ行クト云フ努力ヲ、吾々トシテハ致シタイト思フノデアリマス、其ノ邊ガ固マツテ參リマセスト、今御話ノヤウナ意味ノ補償ト云フヤウナコトニ參リマスルコトハ困難デアラウ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス

○安孫子委員 今ノ御答ニ依リマス、私ハ此ノ冷害施設ヲ北海道ニ——東北地方モ同様ダラウト思ヒマスガ——實行サセルニハ非常ニ困難ヲ伴フデアラウト云フ見透シヲ付ケテ居ルノデアリマスガ、尙ホ斯ウ云フ點ヲ考ヘナケレバナラスノデアリマス、水稻ノ冷害共済事業ヲヤル爲ニハ、勿論第一例ノ農業保險モヤラナケレバナラスト思フノデアリマスガ、サウシマス冷害地方ノ農業者ハ二ツノ組合ニ加入シナケレバナラス、二重ノ掛金ヲシナケレバナラスト云フコトニナルノデアリマス、殊ニ北海道ノ事情ハ、風水害ニ於キマシテモ、旱害ニ於キマシテモ、霜害ニ於キマシテモ事故ガ極メテ少イノデアリマス、特ニ水田面積ノ三分ノ二ヲ占メマス所ノ石狩地方、即チ上川、空知ノ如キ水稻ノ北海道ノ中樞地帯ニ於テハ、其ノ災害ハ問題ニナラスノデアリマス、斯カル場合ニ於テ兩者ヲヤラセルト云フヤウナコトハ、私ハ非常ニ困難ナコトデアラウト思フノデアリマス、一方ノ第一例ノ保險事故ニ對シマシテハ是ハ當然デアリマスガ、ソレヲヤリ、更ニ冷害共済ヲヤルト云フヤウナコトハ、不可能ニ近イコトデハナイカト考ヘルノデアリマス、私自身ガ斯ウ云フコトヲ御尋ネ申上グルノハ、政府ノ御趣旨ハ宜シイノデアリマスカラ、出來ルダケ之ヲヤツテ見ヨウト云フ考ヘヲ持ツテ居リマスガ、併シ實際ヤル上ニ於キマシテ非常ニ困難ヲ伴ヒマスルト、是ハ政府ノ計畫ナサイマシタ其ノ企圖ニ副ハナイコトニナルノミナラズ、却テ農業者ニ色々ナ非常ナ困難ナ事態ヲ生ズルコトニナルノデハナイカト云フ心配ヲ持ツテ居ルノデアリマスカラ、斯ウ云フ風ニ再度ニ互ツテ御伺ヒマスルノデアリマス、殊ニ水害ノ如キモ過去ノ統計ニ於キマシテハ、北海道ハ相當ニアツタノデアリマス、併シ最近治水事業ガ段々完備ヲ致シマシテ、殆ド水害ノ被害

ハ極ク局部ニ限ラレマシテ、大キナ被害ハナイト言ツテモ宜カラウト思フノデアリマスノデ、斯様ナ意味合ニ於キマシテ二ツヲヤルト云フコトハ可ナリ困難デアルト思フノデアリマスルガ、此ノ點ニ對シマシテ伺ヒタイノデアリマスガ、必ズ兩者ヲヤラナケレバナラスカドウカ、共済事業ノミヤツデドウカト云フコトデアリマス、共済事業ノミヤルコトガイケナイトシマスレバ、第一例ノ保險事業ヲ極メテ少額ニ止メテヤルコトハドウカト云フ意見デアリマスルガ、之ニ對スル當局ノ御見解ヲ伺ヒマス

○石井(英)政府委員 只今御尋ネノ點ニ付キマシテハ、昨日モ申上ゲマシタ通り、保險ノ今回ノ擴充ニ付キマシテハ豫テカラノ民間側ノ御意向モアリマシテ、政府ニ於テ相當ノ負擔ヲ致シマスルト共ニ、全國ノ農民ガ全部此ノ共済制度ニ參加ヲ致シマシテ、全部ノ農民ノ總力體制ニ依ツテ、國ト一緒ニ農業ノ共済保險制度ヲ整備シテ行クノデアアル、斯ウ云フ建前ノ下ニ、總テ計畫ヲ致シテ居ルノデアリマス、今回ノ農業保險ノ改正モ、サウ云フコトヲ指導上萬全ヲ盡スコトハ勿論デアリマスガ、ソレ尙且ツ十分ニ行キマセス場合ニハ、其ノ事項ヲ命令シ得ルヤウナ權限ヲ法律ニモ決メタ、斯ウ云フ關係ニ相成ツテ居ル譯デアリマスカラ、農業保險ノ方面ハ全國農民ノ協力的ナ總共済制度ノ實ヲ舉ゲルヤウニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、北海道ニ付テ色々御話ガゴザイマシタガ、内地ニ於キマシテモ比較的保險事故トナツテ居ルヤウナ災害ノ少イ地域モ部分的ニハアルノデアリマスレドモ、是等ノ地方ニ於キマシテモ、今ノ趣旨カラ全部共済保險制度ニ參加ヲシテ貰

○安孫子委員 今御答辯ノ中ニモアツタヤウニ、保險事業ヲ全國ノ危險分擔ノ上ニ於テヤルト云フ御方針ニ對シマシテモ、私共豫テ御願ヒシタコトデアリマスカラ、其ノ點ニ關シテハ全然賛成ヲシテ居ルノデアリマスガ、運営上非常ナ困難ナ事態ガ茲ニ出テ居リマスノデ、ソレニ對シテ何カノ御考慮ヲ拂ツテ戴ケルノデナケレバ、私ハ冷害地方ニ於キマシテハ政府ガ折角改正ニナリマシタ此ノ保險ノ事業ガ圓滑ニ進ミ得ナイノデハナイカト云フ心配ヲ、今ノ御答辯ヲ伺ツテモ、拔ケ切ラナイノデアリマス、此ノ點ニ對シテ私ハ尙ホ十分ニ御考慮ヲ御願ヒシタイノデアリマスガ、非常ナ困難ナ事態ニ遭遇スルノデヤナイカ、斯ウ私ハ見透シヲ付ケテ居リマス

次ニ斯ウ云フコトヲ御伺ヒシタイノデアリマス、冷害ハ不可抗力ノ災害デアリマスケレドモ、或ル程度マデハ人力ヲ以テ輕減ガ出來ルノデアリマス、例ヘバ北海道ノ過去ノ冷害ヲ見マス、大正十二年ノ凶作ハ全道ノ反收ノ平均ハ七升七合デアリマス、併シ最近ノ冷害ハ、殊ニ昭和十六年ノ如キハ大正十二年ノ氣候ノ狀況ニ比ベマシテサ

ウ好クナカツタノデアリマスガ、ソレデモ半作程度ノ收穫ヲ擧ゲテ居ルノデアリマシテ、是ハ其ノ後ノ品種ノ改良ヤ、耕種ノ改善等ニ依ツテ段々冷害ガ軽減サレテ來タ結果デアラウト考ヘマスガ、殊ニ冷害ヲ考ヘマスト、冷害ハ大體二ツノ場合ヲ考ヘルコトガ出來ルノデアリマス、ソレハ秋早ク冷氣ガ來マシテ、結霜ガ早カツタ場合ト、夏ノ低溫ノ場合デアリマス、此ノ點カラ見マシテ北海道ノ品種改良事業ハ可ナリ進歩致シマシテ、極ク早熟ノ品種ハ播種後百二十日位デ結實シマスノデ、秋ノ霜ニ對スル被害ノ軽減ハ相當出來ルト思フノデアリマス、併シ夏ノ低溫ニ對スル所ノ災害ニ對シマシテハ、是ハマダ研究ガ足りナイノデアリマス、併シ府縣ノ品種ト北海道ノ品種ト冷氣ニ對スル所ノ抵抗力ヲ見マスト、府縣ノ品種ハ概ネ攝氏二十度、詰リ穗刈期カラ出穂ノ開花ノ時期ニ際シマシテ攝氏ノ二十度以下ニ下リマスト凶害ノ兆候ガ現ハレマスガ、北海道ノ品種ハ大體攝氏ノ十七、八度カラサウ云フ兆候ヲ現ハスノデアリマス、サウシマスト一三度ノ差ガ現ハレテ來ルト云フコトハ品種改良ノ餘地ガ非常ニアルコトヲ示スノデアリマス、又土地改良ニ依リマシテ、或ハ水溫ノ上昇施設ニ依リマシテ、或ハ溫床ノ施設ニ依リマシテ此ノ冷害ヲ軽減シ得ル事實ハ澤山現ハレテ居ルノデアリマス、又經營改良ニ依リマシテ北海道ニ於キマシテハ北見地方、上川地方ニ於テ色々研究ハ進ンデ居リマス、水田ヲ有畜化スルコトニ依リマシテ、水田ヲ極メテ小部分ヲ畑地ニ還元シ、更ニ集約ナル方法ニ於キマシテ家畜ヲ利用スルコトニ依ツテ經營全體ヲ安全化スルト云フヤウナ方法モ進メラレテ居ルノデアリマス、又

農事實行組合ノ活動ニ依リマシテ、互ニ相助ケ合フト云フ施設ガ十分ニ完成シテ居リマス所ハ、同ジ冷害ニ遭ヒマシテモ被害ノ程度ガ少イト云フヤウナ事實モ澤山アルノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ施設ヲ見マスト洵ニ貧弱デアルト思フノデアリマス、御配付ノ資料ニ依ツテ見マスト、此ノ方面ニ對スル國庫ノ支出ハ昭和十六年ニ於テハ約三十萬圓、十七年ニナリマシテソレガ減リマシテ二十四萬圓、此ノ東北、北海道ニ取リマシテ非常ニ廣範圍ニ互ル所ノ冷害ニ對スル研究獎勵施設トシテハ極メテ貧弱デアル、是デハナラスト私ハ考ヘルノデアリマス、保險ニ依リマシテ災害ヲ救フコトモ勿論大切デアリマスガ、ソレヨリモ先ヅ冷害ノ被害ヲ軽減スル方法ヲ茲ニ確立スルコトガ先決問題デナケレバナラスノデアリマスカラ、此ノ點ニ對シマシテ、是ハ政府ニ於テモ御考ヘデアルト思ヒマスガ、更ニ之ニ對シマシテハ十分ナル國帑ヲ御出シ下サイマシテ、研究獎勵施設ヲ擴充シテ戴キタイト思フノデアリマス、殊ニ今米價ノ問題ガ非常ニヤカマシクナツテ居リマスルガ、特ニ困難ヲ感ズルコトハ所謂低生産地帯デアリマス、或ル地帯ハ現在ノ米價デモ、先程私ガ申シマシタ農業者ハ最低生活ヲ茲ニ確立サレ、翌年ノ再生産ヲ爲シ得ル程度ニ甘シナケレバナラスト云フ所ノ其ノ原則カラ言ヒマスレバ、現在ノ米價デモ間ニ合フ地帯モアルト思ヒマス、併シ低生産地帯、特ニ冷害ノ地帯ヘドウシテモ現在ノ事情デハ非常ニ困難ニ陥ツテ居リマスノデ、重點的ニ其ノ方面ニ特殊ノ御施設ガナケレバナラスト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ對シマシテ當局ノ御考ヘヲ伺ヒタイノデアリマス、第一ハ

現在ノ施設ヲ擴充スル御意圖ガアルカドウカ、又サウ云フ冷害地帯ニ於キマシテ特殊ノ重點的ノ御支出ガ今後ニ計畫サレル所ノ御意圖ガアルカドウカ、其ノ點ニ對シマシテ御所見ヲ御伺ヒ申上ゲタイト思フ次第デアリマス

○石井(英)政府委員 只今御述ベニナリマシタ點ニ付テハ、吾々ノ方トシテハ悉ク御同感デゴザイマシテ、先程來申上ゲマシタヤウニ、冷害防除ノ問題、又冷害ノ性質ニ關スル科學的ナ研究ト云フモノハ、今後出來ル限リ早ク進メテ之ニ對スル共濟施設モ防除ノ方ト併セテ完璧ヲ期スルヤウニ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマスカラ、此ノ冷害ノ防除ニ關シマスル試驗研究ノ施設ヲ擴充スルコト云フコトニ付テハ、今後出來ルガケノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ方法ノ中ニ自ラ第二ノ御尋ネノ地方的ニ特殊ノ施設ヲ講ジテ參ルト云フヤウナ問題モ起ツテ參ルノデハナイカ、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○安孫子委員 今ノ御答辯ノ結果ニ依ツテ考ヘマスト、冷害地帯、特ニ北海道ニ於キマシテハ此ノ冷害ノ施設ヲ獎勵致シマス上ニ非常ニ困難ガアルト云フコトヲ重ネテ申ゲマシテ、私ハ茲ニ御質問ヲ終リニ致シマスルガ、之ニ對シテ多少ノ意見ヲ持ツテ居リマスルノデ、是ハ次ノ別ノ機會ニ於テ申上ゲタイト思ヒマス、是デ私ノ御質問ヲ終ルコトニ致シマス

○池田委員長 安孫子君ノ御質問ガ終リマシタガ、竹内俊吉君如何デスカ

○竹内委員 去ル一月十日茨城縣内原ニ於テ全國農村ノ中堅指導者一万五千餘名ヲ前ニシテ陸軍省ノ谷萩報道部長ガ農村ニ對ス

ル激勵ノ演說ヲサレタノデアリマス、此ノ演說ノ要旨ヲ新聞デ讀ミマスルト、現在農村ガ惱ミトシテ居ル事柄ノ重點ニ殆ド觸レラレ、端的ニ之ヲ衝イテ居ルヤウニ感じマシテ、洵ニ感銘深カツタデノデアリマス、此ノ演說要旨ノ中デ、諸物價ガ非常ニ昂揚シタ中デ、米、雜穀ハ低物價方針ニ制約サレテ其ノ割ニ上ラナカツタ爲ニ、農家ノ收支ニ不均衡ヲ來シ、其ノ爲ニ農村ガ時局下不遇ノ位置ニアルコトハ陸軍ハ之ヲ肯定スルト云フコトヲ斷言致サレテ居ルノデアリマス、兵隊ヲ澤山出シテ居ル農村ニ對シ軍ガ格別ノ關心ノ深イコトハ當然ノコトデアラウト思フノデアリマシテ、谷萩報道部長ノ此ノ演說ハ、率直ナル農村ニ對スル軍ノ意見デアラウト考ヘマス、又此ノ演說ガ直接ニハ一万五千ノ中堅指導者ヲ通シテ、或ハ國民ニハ新聞ヲ通シテ非常ニ日本ノ農村全體ニ深イ感動ト衝動ヲ與ヘタコトト私ハ思ツテ居リマス、戰爭ガ一切ヲ指導スル此ノ政治ノ現段階ニ於テ、軍ノ此ノ意見ハ農政當局トシテモ重要視シテ置カナケレバナラス所デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、農林當局ハ之ニ對シテドウ云フ御感想ヲ持ツテ居ラレマスカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致シマス

○石黑政府委員 只今ノ御尋ネニ御答ヘ致シマス、本委員會ニ於キマシテモ昨日以來他ニモ御質問ガゴザイマシタ通り、又其ノ場合ニ於テ私共モ御述ベ致シマシタ通り、農產物價ノ關係ハ、現狀ニ於キマシテ色々ト問題ヲ孕ンデ居ルコトハ事實デゴザイマシテ、吾々モ豫デ此ノ點ニ付キマシテハ色々ト考究モ致シ、苦慮モ致シテ居ルコトデアリマシテ、其ノ關係ニ付キマシテ何モ報道部長ノ話ニ依ツテ事新シイコトヲ感じタ

ト云フヤウナコトハゴザイマセス

○竹内委員 報道部長ノ演説デ事新シイコトヲ御感ジニナラナカツタト云フ御答辯デ

アリマシタガ、事新シイトカ、新シクナイ

ト云フ問題デナク、現下ノ農村事情ニ對シ

テ軍ガ特ニ御心配ヲサレテ、アノ一万五千

ノ中堅指導者ノ前ニ於テ之ヲ懇ヘタト云フ

コトハ重大ニ考フベキ事柄デアルト考ヘマ

ス、其ノ理由ノ詳細ニ付キマシテハ、申上

グルコトハ適當デハナイと思ヒマスカラ申

上デマセヌガ、銃後ノ生活ノ安定ニ於テド

ノ部面ガ安定率ガ良イト云フ、サウ云フ安

定ノ序列ノアルベキ筈ハ勿論ナイ、勿論ナ

イノデアリマスガ、現在ノ日本ノ實態カラ

見テ、農村ノ銃後生活ノ安定ト云フコトハ

最モハ重要視シナケレバナラスコトデア

ラウト私ハ考ヘマス、其ノ點カラ見テ軍ガ

國民職能層ノ中ニ於テ、農村ト中小商工業ガ

最モ不遇ノ位置ニアルコトハ肯定スルト云

フコトヲ斷言サレタト云フコトハ、之ヲ端的

ニ言ヘバ政治ト政治家ニ對シテ私ハ軍ガ一

大警告ヲシタモノデアルト受取ルノデアリ

マス、私ハ今此處デ米ノ値段其ノモノヲ引

上ゲヨト云フコトヲ申スノデアリマセ

ス、米價ノミガ農村及ビ農家經濟ノ生活安

定ノ全條件デナイコトモ承知シ、テ居リマ

ス、米價ノ操作ガ色々ノ副作用ヲ齎スノデ、

是ハ單ナル比較物價論ヤ原價計算論一本デ

行ケナイ事情モ分ルノデアリマス、併シナ

ガラサウシタ物價論ニコダハツテ居ツテ、

此ノ農村ノ生活安定ヲ失フト云フヤウナコ

トガアツテハナラスコトガ總テノ前提條件デ

アラウト考ヘマス、農林大臣ハ豫算總會、

其ノ他ノ機會ニ於テ米ノ値段ハ上ゲナイ、

併シナガラ生産費ヲ割ルヤウナコトノナイ

ヤウニ措置ヲシテ行ク考ヘデアルト云フコ

トヲ申シテ居リ、又別ノ方法トシテハ米麥

其ノ他ノ生産費ノ低下及ビ經營ノ合理化ニ

依ツテ之ヲナシテ行クト云フ御答辯ヲサレ

テ居ルノデアリマスルガ、私ハ此ノ生産費

ノ低下及ビ經營ノ合理化ト云フ大臣ノ申サ

レタ言葉ノ中ニ大キイ政治的意味ガアリ、

ソコニ大キイ思索ガ含シテ居ルデアラウト

考ヘルノデアリマスガ、其ノ農産物ノ生産

費ノ低下及ビ是ガ經營ノ合理化ト云フモノ

ハ、具體的ニハドウ云フ内容ヲ持ツテ居ル

ノデゴザイマスカ、其ノ内容ニ付テ伺ヒタ

イト思ヒマス

○石黒政府委員 經營ノ合理化、生産費ノ

低下、其ノ方途ニ付テハ勿論非常ニ數多ク

アルト存ジマス、例ヘマスレバ耕地ニ付テ

ノ土地ノ改良、或ハ農村ニ於ケル立地狀態

カラ現ニ存スル所ノ非常ニ努力ヲ要スル事

態ヲ改善スルコト、或ハ多收穫品種ノ發見、

或ハ其ノ普及、又ハ耕作技術ニ付キマシテ

モ、例ヘバ最小ノ肥料ヲ以テ最大ノ收穫ヲ舉

ゲルヤウナ方法ノ普及、其ノ他多々アルヤ

ウニ存ズルノデアリマス、吾々ト致シマシ

テモ現在左様ナ諸點ニ付キマシテ色々ト施

策ヲ致シテ居ルノデアリマス、所デ現在ノ

實績ガ十分デアルカドウカト云フコトニ付

キマシテハ、率直ニ申シマス、吾々ト致

シマシテモダ十分ハ存ジテ居リマセス、

殊ニ例ヘバ品種ノ發見改善トカ、或ハ耕

種方法ノ改善トカ、色々良イ方法ガアリマ

シテモ、未ダ十分ニ實際ノ農家ニソレガ滲

透シテ居ラナイト云フヤウナ憂ヒガ多々ア

ルヤウニ存ズルノデアリマス、斯様ナコト

ニ付キマシテ私共ト致シマシテハ、本年殊

ニ力ヲ加ヘタイ、從來カラソレハ勿論ヤツ

テ居リマスケレドモ、實際ニ滲透スルト云

フコトニ付キマシテ、殊ニ力ヲ致シ實績ヲ

舉ゲルヤウニ運シテ參ラナケレバナラスト

云フ風ニ存ジテ居リマス、今後尙ホ益々努

メナケレバナラス餘地ガ非常ニ多イコトヲ

感ジテ居ルノデアリマス

○竹内委員 只今ノ農林次官ノ御答辯デハ

土地改良、多收穫ノ品種發見、其ノ他ノコ

トヲ申サレマシタガ、斯ウ云フ事柄ハ何レ

長イ期間ニ於テハ勿論生産費ノ低下ト云フ

コトニ相成ルノデアリマセウガ、吾々ガ今

問題ニシテ居ル生産費ノ低下ト云フコトハ、

サウ云フ五年、十年先ノ生産費ノ低下ノコ

トデハナイノデアリマシテ、端的ニ言ヘバ

明年ノ生産費低下ト云フコトニ關聯シテノ

コトナンデス、折角ノ御親切ナ御答デアリ

マスガ、私ハサウ云フコトデアツテハ、現

下農村ガ求メテ居ル生産費低下ト云フコト

ニハ大シタ效果ハナイ、寧ろ土地改良ノ如

キハ、之ヲ今年行ヘバ明年ノ生産費ノ低下

ニナル、是ガ昂騰スルコトハ土地ニ對ス

ル資本ノ昂騰デアリマスカラ當然デアリマ

ス、サウ云フ意味デナク、現下ノ米價問題

ト睨合セテノ生産費低下ヲ私ハ申上ゲテ居

ルノデアリマシテ、此ノ點ニ付テハモウ一

度御答ヲ願ヒタイと思ヒマス、ソレニ付テ

考ヘマスコトハ、農林大臣ガ米ノ値段ハ上

ゲナイ、併シ生産費ヲ割ルヤウナコトガナ

イヤウニ處置スル、詰リ補助金ガ行ク必要

ガアレバ、補助金デ行カナケレバナラスト

云フヤウナコトヲ申サレテ居ルト云フコト

ヲ聽キマシテ、農林省トシテハ肚ガモウ決

ツテ居ルノデヤナイカト私ハ考ヘル、肚ガ

決ツテ居ルモノトスレバ之ヲ成ベク早イ機

會ニ明カニサレタ方が今年ノ増産ニ非常ニ

大キイ效果ガアラウト思ヒマス、若シ肚ガ

決マラスト云フコトデアツテ、唯大體ノコ

トヲ申上ゲテ居ルノダ、肚ガ決ラヌ理由ト

シテハ調査ガ不十分ダトカ、サウ云フコトデ

アラウト思ヒマスガ、或ハ四月三十日マデ

ニ米價ノ告示ヲスレバ宜イコトニナツテ居

リマスカラ、ソレマデ持越スノダ、今之ヲ

發表スレバ色々弊害ガ起ルト云フ御考ヘ

デアルカモ知レマセヌガ、現在ハ御承知ノ

通り、農村デハ小作契約ノ更新期デアリマス、

又來年ノ耕作ノ準備ヲ致ス爲ニハ種籾ノコ

トカラ何カラ大體ニ於テ此ノ一月位ノ中ニ

ヤルノデアリマス、斯ウ云フ面ヲ考ヘテモ肚

ガ決ツテ居ルモノトスレバ、成ルベク之ヲ

早ク明カニサレタ方が非常ニ效果ガアラウ

ト考ヘマスガ、其ノ點如何デゴザイマスカ

○石黒政府委員 先程私ガ申シマシタコト

ニ付テ當面ノ生産費低下ニナラスト云フ御

話デゴザイマシタガ、ソレハ今申シマシタ

ノハ極大難把ナ御話デゴザイマスガ、私

ガ假ニ例トシテ舉ゲマシタモノモ相當當面

ノ生産費ノ低下ニナルト思ヒマス、土地ノ

改良ニ致シマシテモ、私モ地方デ經驗ガゴ

ザイマスガ、事實其ノ施設ヲヤツテ其ノ年

カラ收穫ガ非常ニ殖エ、而モソレガ一時ニ金

ガ要ツタラウト云フコトデアリマセウガ、

現金支出ニ付テハ相當補助金モ出テ居リ

マスシ、其ノ他致シマシテ、格別當面エラ

イ負擔ニモナラナイデ、而モ生産費ハ增收

ニ依リマシテ低減シテ居ルト云フ事實ガア

リマス、ソレカラ耕作方法ノ改善ト云フヤ

ウナコトハ、是ハ直チニ生産費ノ低下ト云

フヨリモ、增收ト云フコトガ正シイノデア

リマセウガ、延イテ生産費ノ低下ニモナル

ト云フコトガアル譯デアリマス、併シ勿論

私ノ申シマシタ事柄ガ先ヅ總テデアルトハ
存ジマセヌノデ、廣ク各方面ノ有益ナル御
意見ニ依リマシテ、今御話ノヤウナ目途ニ
向ヒマシテ、最善ノ努力ヲ致シタイト思フ
ノデアリマス、尙ホ今大臣ノ答辯ニ關聯致
シマシテノ御話ガ最後ニゴザイマシタガ、
小作ノ更新期云々ノ御意見モゴザイマシタ
ガ、何レニ致シマシテモ今日ノ場合ニ於キ
マシテ恐ラク大臣ガ述ベマシタ以上ノコト
ヲ申述ベルベキ別ニドノ方面ニ——要スル
ニ大臣ト致シマシテハ此ノ價格關係ノコト
ニ付テ非常ニ苦慮シテ居ル、是ハ事實吾々
モ色々相談ヲ致シテ居リマスカラ、其ノ事
ヲ申シタノドト思ヒマスガ、ソレ以上ニソ
レガドウ云フ方向ニ向ツテ居ルト云フヤウ
ナコトヲ今茲ニ申スヤウナ段階ニハ至ツテ
居ラナイト云フコトハ間違ヒナイコトデア
リマシテ、折角ノ御尋ネデアリマスケレド
モ、其ノ點ニ付テハ申上ゲルモノヲ持ツテ
居リマセヌ

○竹内委員 私ハ今ノ點ガ非常ニ重要ナ點
デアルト考ヘマスルガ、是ハソレ以上申上
ゲマスルト、見解ノ相違ニナリマスカラ申
上ゲマセヌガ、今日農村ガ望ンデ居リマス
コトハ、單ニ米價ヲ引上ゲヨト云フ問題デ
ハナクシテ、生産ノ安定ヲ得タイ、生産ヲ
スル爲ニ一層ノ御奉公ガ出來ルヤウナ状態
ニシテ欲シイト云フ熱望ガ漲ツテ居ルコト
ハ、先程次官ノ御答辯ノ中ニアツタコトデ
モ明瞭デアリマス、ドウカ其ノ點ヲ十分ニ
御考ヘ下サツテ、詰リ政治ヲモウ少シ考ヘ
テ欲シイ、私ハ農業保險對策ニシテモ、米
價ノ問題ニシテモ、サウ云フ技術的ナルコ
ト、或ハ思ヒ過シノヤウナコトデナク、國
民一致結束シテ此ノ大戰争ヲ勝抜ク決意ヲ

シテ居ルノデアリマスルカラ、國民ヲ信頼
シテ政府ガ肚ヲ割ツテ出レバ、ソレニ依ツ
テサウ憂慮スベキ事態ハ起ルモノデハナイ
ト考ヘテ居ルノデアリマス、是レ以上申上
ゲマスルト意見ノ相違ニナリマスルカラ申
上ゲマセヌ

次ニ農林省ガ皇國農村確立ノ爲ニ應急
施策ヲ御立テニナツテ、之ヲ實施シヨウ
トシテ居ル御意圖ノアリマスコトハ洵ニ
其ノ計畫ニ敬意ヲ表シ、其ノ效果ニ大キ
イ期待ヲ持ツノデアリマス、其ノ施策ノ中
心ヲナスモノハ自作農創設事業ノ擴充強
化ニアルヤウニ見受ケルノデアリマス、今
日農村ノ實體、農業ノ現段階カラ考ヘテ、
農地政策ガ一ツノ大キイ基本ヲ成シテ居ル
ト云フコトハ申スマデモナイノデアリマス、
所謂野蠻農政ノ農地政策ノ現レガ、此ノ皇
國農村確立ノ施策ノ中ノ大眼目ヲ成シテ居
ル自作農創設事業トシテ現ハレテ來タモノ
デアルト考ヘマス、農地政策ニ關シマシテ
ハ、色々ノコトヲ言フ學者モ居リ、政治家
モ居ルノデアリマシテ、或ハ強權ニ依ツテ
小作地ヲ全部國家管理ニシタ方ガ宜シイト
云フヤウナコトヲ唱ヘテ居ル人モ居リマス
ルガ、私ハサウ云フ土地ニ對スル強權ノ發
動ノ如キハ、日本ノ國政ハ本體カラ申シマ
シテモ、又農村社會ノ傳統的ナ社會性カラ
言ツテモソレハ適當デハナイト考ヘマスル
ノデ、今政府ガ御計畫ニナツテ居ル自作農
創設事業ニ多大ノ期待ヲ持ツ者デアリマス、
サウシテ逞マシイ專業農家ヲ中心トスル皇
國農村確立ノ爲ノ自作農創設事業ハ、名前
ハ自作農創設事業デアリマススケレドモ、
從來ノソレトハ質的ニモ、量的ニモ全ク飛
躍シタル基盤ノ上ニ立ツモノデナケレバナラ

スト考ヘルノデアリマス、申上ゲルマデモ
ナク、從來ノ自作農創設事業ハ大正末期ノ
農村ノ行詰リニ端ヲ發スル農民救済ノ一ツ
ノ農地ノ合理政策ト云フカ、サウ云フモノ
デアツタノデアリマスガ、今日ノ此ノ自作
農創設ハ皇國農村ノ確立ト云フ確乎不動ノ
皇國農村ガ本來アルベキ姿ニ打樹テルト云
フ、非常ニ大キナ確乎不動ノ施策デアリマス
ルカラ、其ノ自作農創設ノ内容ハ先程申上ゲ
タヤウニ量的ニモ質的ニモ、全ク躍進サレ
タ姿デ現ハレテ來ナケレバナラスト私ハ考
ヘルノデアリマス、ソレニ付テ、此ノ自作
農ノ創設ニ附隨シテ自作農ノ維持、保護ト
云フコトガ非常ニ重要ナ一ツノ部面デアラ
ウト考ヘマス、其ノ觀點カラ政府ハ、例ヘ
バ農地ノ家産法的ナ措置ヲ何カ考ヘテ居ル
カ、家産法其ノモノヲ設ケルト云フコトハ、
或ル色々ノコトカラ見テ不可能ノコトデア
ルカモ知レマセヌガ、家産法的ナ何等カノ
措置ヲ自作農創設事業ト併セ行フ用意ヲ持
ツテ居ラレルカドウカ、其ノ點ヲ御伺ヒ致
シマス

○石井(英)政府委員 只今御尋ネノ自作農
創設ノ實施ニ關聯ヲ致シマシテ、家産制度等
ノ實施ヲ考慮シテ居ルカドウカト云フ點デ
アリマスルガ、差當リノ皇國農村確立促進ノ
施設ハ、御尋ネノヤウナ趣旨ニ於ケル農村
確立政策ノ一端デアリマシテ、是ト併行致
シ、又ハ相續キマシテ、農村確立ノ爲ノ諸
施策ヲ漸次實施シテ參リタイト考ヘテ居
ルノデアリマス、農地ノ問題ニ關シマシテ
モ差當リノ對策ト致シマシテハ、自作農創
設ニ對スル資金融通ノ機構ヲ改訂スルト云
フコトニ重點ヲ置イテ制度ヲ立テテ居ルノ
デアリマスガ、之ニ引續キマシテ、現在農
林省ニアリマスル農地審議會ニ皇國農村確
立ノ必要ニ應ジタル農地政策上執ルベキ方
策ト云フコトヲ諮問致シマシテ、其ノ審議
會ニ於テ之ニ相次イデ實施スベキ制度問題
ノ研究ヲ致シテ居ルノデアリマス、其ノ制度
問題ハ幾多ノ重要事項ヲ包含スルコトニ
ナルト思ヒマスガ、御尋ネノ如キ家産制度
ノ問題ト云フモノモ其ノ中ノ重要ナル一項
目トシテ研究ヲ致スコトニナラウト考ヘテ
居ルノデアリマス

○竹内委員 從來我が國ノ農政ニハ、小作
制度及ビ小作人ニ對スル指導乃至ハ保護、
或ハ取締ト云フモノガアツタノデアリマス
ルガ、地主ニ對スル指導ノ具體策ト云フモ
ノガ殆ドナカツタト思フノデアリマス、是
ハ言フマデモナク一ツノ大キイ手落ちデア
リタヤウニ思フノデアリマス、尤モ近年各
地方トモ地主會ト云フモノガ出來マシテ、
地主ノ立場カラ其ノ活動ヲシテ居ルモノガ
アルノデアリマスルガ、其ノ活動ノ内容ハ
非常ニ期待スベキモノモアリマスケレドモ、
其ノ活動全體ヲ眺メテ見ルト、是ハ別ニ統
一アル活動デモナク、又現下ノ時局ノ要請
ニ完全ニ一致シテ居ル活動ノミデアルトモ
限ラスノデアリマス、農業ニ於ケル地主ノ
位置ノ重大ナルコトハ申上ゲルマデモアリ
マセヌ、此ノ地主ノ指導ニ關シマシテ政府
ハ此ノ時局ニ鑑ミテ、地主ニ名譽アル農村
ノ指導者トシテノ何等カノ措置ヲ執ラウト
云フ用意ガアルカ、今日ハ地主ハ明治大正
時代ノ地主ト違ヒマシテ、喜ンデ協力スル
コトト思ヒマス、或ハ場合ニ依ツテハ法令
ヲ以テ地主ニ増産ニ對スル何等カノ責任ヲ
負ハスコトモ考ヘ得ルデアリマセウ、何レ
ニシマシテモ、此ノ地主ノ生産増強ニ結付ケ

タ指導ヲ何カ御考ヘニナツテ居リマス

○石井(英)政府委員 只今御尋ネノ地主ノ

協力體制ノ問題ハ、差當リ自作農創設ノ問題、其ノ他農村確立ノ促進ノ施設ト云フモノヲ總協力體制ヲ通ジテ實現ヲシテ参リタイト云フ方針ヲ執ツテ居リマスノデ、地主ノ協力ヲ求メ、其ノ協力ヲナシ得ルヤウナ體制ヲ作ルト云フコトハ非常ニ必要ナ事項トシテ全ク御同感ニ考ヘテ居ルノデアリマス、最近ノ情勢ノ變化ニ連レマシテ、各方面ニ農村確立ヲ目標トシタ地主ノ協力的機運ト云フモノモ漸次幸ヒニシテ昂マツテ参ツテ居リマス、之ニ應ジマシテ之ニ即應シタ方法ヲ中央トシテモ執ツテ参リタイト考ヘテ居ルノデアリマスガ、マダ具體的ニ斯様ナ方法ヲ以テ、或ハ法令ヲ以テ云々ト云フヤウナ所マデ進ンデハ居ラナイノデアリマス、併シ具體的ニ適當ナ方法ヲ執リマシテ、此ノ地主ノ協力體制ヲ漸次強イモノニシテ参リタイト云フコトヲ期シテ居ル次第デアリマス

○竹内委員 其ノ點モウ少シ具體的ニ、大

體今考ヘテ居ルコトヲ、例ヘバ土地改良ニ關シテハ地主ハ斯ウ云フ責任ヲ持ツヤウニ指導シタイトカ、何カ具體的ナコトヲ御考ヘニナツテ居ル筈ダト思ヒマスガ、今少シ具體的ニ御答ヘ出來マセヌデセウカ

○石井(英)政府委員 只今具體的ニ此處デ

申上ゲル程度ニ實ハ吾々トシテハ熟シテ居ラナイノデアリマス、地主ノ側ノ協力ヲ必要トスル事項ハ多クアリマスケレドモ、其ノ協力ヲ斯ウ云フ方法ニ依ツテ圓滑ニ進行セシメルヤウニシタイト云フ具體的ノ方法ヲ、只今色々研究シテ居ルノデアリマス、ソレハマダ此處デ具體的ニ御話申上ゲル程

度マデ熟シテ居ラナイノデアリマス、左様御諒承願ヒマス

○竹内委員 最後ニ米ノ買入價格ノ食糧管

理施行令ニ依ル當該年度ノ、例ヘバ四月三十日マデニ農林大臣ガ之ヲ定メテ告示スルト云フコトニナツテ居リマスガ、此ノ事柄ニ關シテ先程申上ゲタヤウニ、四月三十日ニ告示ヲスルノデハ増産ヲ刺戟スルト云フ面ニ於テハ是ハ遲イノデアリマス、私ハ少クトモ二月末位マデニ告示ヲスルノガ増産刺戟ノ上ニハ非常ニ效果ガアルト考ヘルノデアリマス、四月三十日マデニ告示スルト云フコトハ、米價ノ上ルコトニ依ツテ起ル、或ハ下ルコトニ依ツテ起ル色々ノコトヲ考ヘラレタ政治的措置デモアラウカト考ヘマスガ、現在デハ米ハ全部供出割當ニナツテ居ルノデアリマシテ、二月末ニ發表シテモ、四月末ニ發表シテモ、ソレ程大キイ影響ノアルベキ筈ガナイノデアリマス、サウ云フ狀態デアルトスレバ何モ四月三十日マデニ決メルト云フコトヲ、四月三十日一パイノニ之ヲシナクテモ、増産ニ效力ノアル適當ノ機會ニナスコトガ宜イノデヤナイカト考ヘマスガ、如何デゴザイマスガ

關聯シマスカラモウ一、二點申上ゲマス

ガ、米價決定ノ基礎トナル米ノ反當生産量ノ決定、米價決定ノ基礎資料ニ關スル規定ハ、食糧管理法施行規則十一條、十二條、十三條ニ規定シテ居ルノデアリマスガ、此ノ三箇條ノ規定ハ、現在ノ狀況ニ依ル米價決定ノ基礎算出ノ方法トシテ完全ナルモノト農林省ハ御考ヘデアリマスガ、ソレトモ不備ノ點、或ハ現狀ニ照ラシテ不合理ノ點ガアルト御考ヘデアリマスガ、其ノ點ヲ一ツ、ソレカラ食糧管理法、食糧管理法施行令、

施行規則ヲ通ジテ見スマト、米價ハ生産者ノ反當生産費及ビ一般物價指數ノ變動ノアツタ場合ハ、法ノ命ズル所ニ依ツテ必然的ニ自働的ニ米價ノ改訂ガ行ハレナケレバナラナイ精神ノヤウニ解釋サレマスガ、其ノヤウニ解釋シテ宜シカドウカ、其ノ三點ヲ御伺ヒシタイト思ヒマス

○石井(英)政府委員 其ノ年ノ米價ヲ其ノ

年ノ四月末日マデニ決定スル、斯ウ云フコトヲ制度トシテ決メテ居ルノデアリマス、勿論御説ノ通り米ノ集荷ノ方ノ進行狀況ヲ考ヘマシテ、成ベク早イ時期ニ米價ヲ決定スルト云フコトガ、生産方面ニ良イ刺戟ヲ與ヘルト云フコトハ吾々モ御同感ニ考ヘルノデアリマス、此ノ四月末日マデニ決メテ居ルコトハ、遅クモ四月中ニハ決メナケレバナラスト云フコトヲ政府ノ方デハ決メテ居ルノデアリマス、唯其ノ場合ニドウシテモ考ヘテ置カケレバナラヌノハ、現在ノ米價ノ設定ノ基準ト云フモノガ、御承知ノ通り生産費調査ト云フモノニ非常ニ大キナ要素ヲ置イテ居ルノデアリマス、此ノ生産費ハ前年ノ米ノ生産費ト云フモノヲ取込マナケレバナラスト云フ事情ハ、是亦申スマデモナイノデアリマス、其ノ前年ノ米ノ生産費ヲ取込メテ、サウシテソレヲ其ノ年ノ米價ノ算定ノ基礎ニスル準備トスルニハ相當ノ時間ト手數ヲ要スルノデアリマス、ソレガ出來ルダケ早く完成スルコトニ從來トモ努力ヲ致シテ居リマスケレドモ、其ノ方面ノ條件ノ制約ヲ受ケマシテ、二月ナリ、三月ニヤルト云フコトハ非常ニ困難ナ實情ニアルノデアリマス、ソレデ四月中マデニ決メマスレバ、植付前ニ生産者ニ大體ノ目標ヲ示スト云フコトハ先ヅ、支障ハナイ、斯様

ニ考ヘマシテ、四月中マデニ決メルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、主トシテサウシテ居ルノハ生産費ノ關係カラ來テ居ルノデアリマス

ソレカラ現在ノ生産費調査ニ關シマス基

準ノ方法ガ、最善ノモノト考ヘテ居ルカドウカト云フ御尋ネデゴザイマスガ、此ノ米ノ生産費、其ノ他一般的ニ考ヘマシテ農産物ノ生産費調査ト云フモノハ、御承知ノ通り非常ニ難カシイモノデアリマス、隨テ此ノ農産物、特ニ米ノ生産費ノ問題ニ付キマシテハ其ノ的確ヲ期スル爲ニ、調査方法ニ付テ研究致スベキ事項ハマダ、アルト吾吾ハ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ意味ニ於テ調査研究ノ餘地ガアルコトハ考ヘテ居リマスケレドモ、差當リノ問題ト致シマシテハ、現在ノ制度ヲ以テ先ヅ、適當ナルモノト考ヘテ居リマス

ソレカラ米價ノ改訂ハ、經濟事情ノ變動

著シキ場合ニ限ツテ之ヲナスコトニナツテ居リマスガ、是ハ自働的ニ改訂ガ行ハレルノニアラズシテ、經濟事情ノ變動ガ極メテ著シイ場合ニ於テ改訂ヲナシ得ルト云フ建前ニナツテ居ルノデアリマスカラ左様ニ御承知願ヒタイノデアリマス

○竹内委員 只今ノ米價決定ノ基礎トナル

米ノ反當生産量ノ決定並ニ米價決定ノ基礎資料ニ關スル規定、食糧管理法施行規則十一、十二、十三條ノ規定ガ適當デアルト云フ御考ヘノ御答辯デアアルガ、併シナガラ尙ホ研究ノ餘地ガアルト云フヤウニ「デリケート」ナ御答ヘガアツタガ、此ノ問題ニ付テハ只今要求申上ゲテ居ル資料ヲ戴イテカラ改メテ御尋ネ致シタイト思ヒマス

最後ニ一言申上ゲタイノハ、先程我孫子

委員ヨリ北海道ノ事例ヲ舉ゲテ、冷害救済ニ關スルコトヲ縷々申述ベラレマシタガ、北海道デ舉ガラレタ事例ト、東北ノ凶作ノ救済ニ關スル事柄トハ全ク同様デアリマス、最低最高率ノ撤廢ハ農林省デハ非常ニ確信ガアルヤウデアリマス、併シ實情ニ合ハス、私ハ實際ヲ見テ所謂再生産ノ意味ノ保險ヲナシテ居ナイ、正シク是ハ我孫子委員ガ申サレタ通り、備荒貯蓄デアリマス、斯ウ云フコトデナク純保險論ニ囚ハレルヤウナコトデナク、モツト政治的態度デ、調査ガ出來ナケレバ止メルト云フコトデナク、此ノ食糧ノ生産増強ト云フ事態ハ國家ノ至上命令デアリマスカラ、此ノ事態ニ即スルガ如キ、モツト腰ダメノ政治的ナ措置デ行クベキデアツテ、是ハ算盤ヲ置イテ、算盤ノ數字ニ乗ルヤウナ農業災害デナイト私ハ考ヘマス、モツト政治的ナ意味カラ解決ヲ要スル問題デアラウト考ヘマス、ドウモ從來ノ農林省ノヤリ方ヲ見テ居ルト、純保險論ノ理論ニ囚ハレテ居ルヤウナ形ガ見エルノデアリマスカラ、サウデナク、ソレヲ離レテ政治的觀點カラ之ヲ解決スルト云フ方向ニ大體ノ建前ノ方向ヲ變ヘテ貫ハナケレバナラヌト思フ、詳シイ事例ニ付テハ我孫子委員カラ縷々申サレマシタノデ、其ノ點ダケヲ特ニ申上ゲマス、以上デ終リマス

移ル、質疑ダケハサウ云フ風ニ進メタイト云フ希望ヲ持ツテ居リマス、ソコデ明日御質問ノ方ハ一ツ理事ノ諸君ニ御通告ヲ戴キタイノデス、明日ハ又大臣モ極メテ御多忙デスケレドモ、今農林次官ト相談シテ、午前十時ニハ是非御出席ヲ願ヒタイト云フコトヲ、大臣ト相談シテ戴クコトニシテ居リマス、明日ノ質問者ハ通告ト、項目ト、或ハ大臣、次官ト云フヤウナ御希望ガアレバ、サウ云フヤウナコトヲ理事ノ方マデ御申出ヲ戴キタイト思ヒマス、本日は是デ散會致シマス

午後零時一分散會

○池田委員長 是デ本日ノ質問ハ終了致シマシタ、本日ハ議場ノ關係上午前中ニ致シマシテ、明日ハ午前十時ニ開會ヲ致シマシテ、午後マデ繼續シテヤル積リデ居リマス、尙ホ段々農業保險改正法外二件ニ對シテノ御質問モ大分進ミ、昨日ハ七名ノ諸君、本日ハ二名、明日位デ大體此ノ問題ニ付テハ一應晷ヲ付ケテ、又他ノ問題ニ

昭和十八年二月七日印刷

昭和十八年二月八日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局